

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4770800292
法人名	医療法人 博心会
事業所名	グループホーム「うちな～家」
所在地	〒901-2103 沖縄県浦添市仲間3丁目1番13号 (電話) 098(873)1165

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(H20年10月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 7,000 円
敷金	(有)(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月8日現在)

利用者人数	7 名	男性 2 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 89 歳	最低 80 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平安病院 ・ レオデンタルクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは近隣に市行政や公共機関、小中学校・高校等もあり名所も残る閑静な住宅地に位置する。運営者は市内の認知症デイサービスの関わりの中で認知症を地域で受けられる必要性を強く感じてホームを設立した経緯がある。職員は明るく利用者一人ひとりの思いを大切にしながら安らぎや喜びのある毎日のケアを目指している。あせらず気負わずあきらめず、亀のあゆみで大地を踏みしめながら確実に利用者へ寄り添う穏やかな暮らしをサポートしている。利用者の今ある機能を維持しつつ、出来ることは積極的にやってもらう姿勢は多脚杖から手引き歩行へと変化させた。更に職員同士は活発な情報を共有して、利用者の役割を表出させる場面づくりに努めている。開設したばかりのホームだが、地域の認知症高齢者が安心して腰を下ろせる拠点となるよう今後の活躍が期待される。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回がはじめての外部評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	おもに管理者が取り組んだ。今回はホーム開設したばかりという関係上、全員参加という取り組みは叶わなかった。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議はまだ行われていないが、メンバーの声かけを終え、開催期日は来月予定している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問が頻繁にあるので、日頃から意識的に家族の意見や苦情を引き出せるように心がけている。毎月行っているミーティングには利用者一人ひとりを個別的に見た結果を検討しあい、向上するための取り組みに力を入れている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームを開設してまだ日が浅いため、地域との具体的な関わりは行っていないが、日常的な近隣とのつきあいを深めたり、近くの公民館などの利用等を検討中である。昼食時になると入所者家族の出入りが盛んにあり、地域で支えあうことの支援、地域で暮らし続けることの支援が家族によって支えられていることも実感する。
重点項目④	

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はホーム設立前に全員で話し合いをもち決定した。1・利用者と共に生活し支援する。2・一緒に考え動く。3・いつも一緒にいるという3つの理念を玄関に分かりやすい文字で大きく掲載している。	○	独自の理念を創り上げているが、地域性に乏しい。利用者のその人らしい暮らしを住み慣れた地で、一日でも長く支える地域での暮らしは最も重要であるから、理念の中に追加してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム開設したあとに大幅な人事異動があったため、現職員には未だ浸透していない。	○	理念は日々のケアをしていく上で職員自身が常に立ち戻る原点として肝に銘じるほど大切なことである。朝のミーティングに唱和して意識づけるとともに今後、理念が実践の中でどのように活かされるかを常に考えながら取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの公民館に加入予定しているが、地域との具体的な活動はまだない。	○	利用者がこれまで歩んできた暮らしを地域でサポートする為に、地域との連携は大切である。地域とは長く続く関係であるから、大きく構えず、あいさつとか笑顔など、今出来ることからまず始めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は管理者が一人で取り組んだ。はじめての自己評価なので今後活かしていく。	○	職員が共通の目線で今やっていることを一体的に取り組むことは大事である。自己評価の意義や活用方法を理解し、評価が日々のケアを見直すための柱となり、自己評価がより活かされるよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成委員は揃えられ、来月の発足予定である。自治会長、市職員、地域包括センター職員、家族など様々な意見がでて会議がスムーズに進行されるよう準備している。	○	運営推進会議は隔月に開催されることが義務付けられているので、早めの会議開催を期待したい。ホームの自己評価や今回の外部評価の内容や結果を公表し、今後の検討材料として十分に活用してほしい。この会議の大きな役割として社会参加のきっかけ造りがある。多彩なメンバーの人脈を活用してホームに活かす情報収集ができるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市町村担当者と事業運営について相談を随時している。また市役所ロビーでの作品展に向け利用者と協働で製作に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族が来訪したときや、定期的な連絡、緊急時の連絡など密にしている。また多忙でホームに来られない家族に対しては電話で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員の写真と名前を玄関の中央に掲げたのは家族からの意見を反映させたものである。意見箱は未だ利用されていないが、これに頼らず家族が気軽に何でも言えるような信頼関係が築けるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立後大きな人事異動があつて家族に心配を招いたが、文書での説明や家族が揃った敬老会時に異動の報告をしている。また異動の際の利用者へのダメージを出来るだけ小さく抑えるために新旧交代職員をダブらせて勤務してもらうなど工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への派遣は、法人内の勉強会に一部の職員が参加している。	○	職員を積極的に研修させることや資格アップの為の助言などはホームでのサービスの質の向上に直接繋がることであるから、管理者は年間研修計画を立て、全員が公平に参加できるよう勤務ローテーションにも配慮して前向きに関わってほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流で職員が他事業所訪問するときは利用者を一人お連れして出かけている。同業者とはグループホームと小規模多機能事業所の2つのネットワークに加盟している。市役場ロビーで予定している作品展も市内グループホーム5事業所で取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現況は、地域の医療機関からの見学が主だが、体験してもらって双方で入所可能かどうかを確認する。1週間対応したことも有る。また帰宅願望の強い利用者には家族に来てもらい、夕食を共にするなど協力してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の一面だけを見て判断するのではなく、生活暦も含め、別の角度からも見て理解するように努力している。職員間では小さい情報も共有して入所者とよりよい関係性が築けるようなんでも話し合っている。ビデオ芝居を一緒に見るとき、昔のことや言葉の意味など利用者が教えてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日課は大まかにはあるが、利用者のペースに合わせて個々の行動を優先している。アセスメントをしっかりとしてあり、それらを頭に入れて支援している。普段の生活で職員の気づきを家族に連絡、買い物支援に繋げるなど情報を共有し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族としっかり話し合った後に作成され実施されている。毎日のバイタルチェックの他に、入浴時に全身を観察し、気がかりがあればすぐナースに診てもらい、医師につなぐというチーム体制が出来ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行われ、見直し後は新たな計画を作成している。入所時多脚杖歩行だった利用者に対し、1対1の手引き歩行を実行して利用者のコミュニケーションと質の向上につとめている。また利用者本位になるよう職員会議での意見交換やカンファレンス等は利用者一人ひとりの名を挙げて活発に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の定期的病院受診や外泊を積極的に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医の受診を支援し連携を密にしている。利用者の情報提供書(食分量・排尿・睡眠等)を作成し病院受診時に家族に持参させ情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして重度化や終末期に向けた方針は確立され、家族や職員も理解している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室には引き戸の他にのれんが施され、利用者の居室内での安全を確認する引き戸の小窓はのれんで覆い、利用者への配慮が伺える。トイレにも引き戸のほかと同じくカーテンを設えてプライバシーに細かく配慮している。排便チェック表は便の種類など職員だけが分かる図式にして、プライバシーの保護に心がけ職員にも徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者同士の関係性をつなげその人らしい暮らしを支援している。相性は悪いが離れるわけでもない両利用者に対して、策を練るのではなく、静観し利用者が主体となった暮らしになるようありのままを尊重し、優しく見守り声かけ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が一緒にテーブルを囲み、職員は時々介助しながら利用者は互いの食事を分け合うなどほほえましい場面も見られた。食べる一方になりがちな利用者に話題を投げかけ、和気あいあいとした時間を共有している。		食事時間はテレビを消して、会話をたのしんでほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は同性介助を基本にしている。入浴を敬遠される利用者へは意向を尊重し希望日に誘導している。利用者の状態に応じて2人対応で入浴支援する場合もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	釣りが趣味の利用者を海に誘ったり、気晴らしにドライブに行ったりしている。家事をお願いしたり、習字の好きな利用者に献立メニューを書いてもらったり、元塗装業の利用者に木の実の装飾をしてもらったり、畑の好きな利用者に植物の水やりなどと利用者の表出場面を工夫して支援している。		女性の楽しみごとが少ないように見受けられる。裁縫、掃除道具、お手玉、綾取り紐、けん玉など昔懐かしい物品の準備等試みてほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の日用品等の買い物をはじめ、介護保険の更新時に家族から依頼があれば本人も一緒に役場に出かけるなどして積極的に外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることは拘束に繋がると理解し、日中は鍵を掛けていない。外に出たがるような不安行動が見られる場合でもその人の状態を把握して穏やかになるまで寄り添い、施錠はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内の壁材は延焼防止不燃材を使用している。管理者は消防訓練計画の講習を終え、近々避難訓練を予定している。	○	事業所独自の避難訓練を早急に取り組んでほしい。火災を想定した非難口への誘導、消火、協力体制の手順などを確認して、日々危機意識を持って過ごしてほしい。地域との交流を増やし災害時等の協力関係が築けるよう努めてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者の状態を考慮した量にし、残量のチェックや水分量は毎食後記録している。利用者がいつでも水分が確保できるよう、テーブルに飲み物の準備をする等配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間を囲んで放射状に各居室、台所、浴室、トイレ、玄関が設えてあるので、職員と利用者がお互い見渡せる環境にある。利用者においては好きな場所で集うことが出来る。玄関内に長いすを置き、飾り物も玄関先に集中させ、居間はスッキリして落ち着いた共用空間が維持されている。		利用者は柔らかいソファでテレビを囲んで寛いでいる。ホーム内にはテレビ以外の音楽も流れているが、会話の妨げにならないか、音量を押えるなどの配慮がほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごせるような環境づくりを心がけている。	○	居室内は共通のベッドや衣類収納庫が使用されている。利用者が思い思いの装飾を施しているが、特に持ち込みの物品が少ない。利用者が家族とのつながりを、暮らしながら実感できるよう職員は家族と共に工夫してほしい。